

令和 8 年 9 月 4 日

6 年生保護者様

加古川市立野口南小学校
校 長 堀之内 健志

2026（令和8）年度全国学力学習状況調査結果のお知らせ

処暑の候、保護者の皆様におかれましては、ますますご清栄のことと喜び申し上げます。

また、平素は、本校の教育活動にご理解とご協力を賜り、心よりお礼申し上げます。

標記調査の結果が7月末に公表されましたので、本校児童の現状の概要を保護者の皆様にお知らせいたします。

国語科

（1）結果の概要

- ・国語科全体の結果(平均正答率)は、全国や県・市の平均を下回る結果でした。
- ・言葉の特徴や使い方に関する事項(言葉のきまりや語彙への理解を深め、言葉を正しく効果的に使う力)については概ね良好で、日頃の漢字ドリルや基本漢字の練習成果が確実に表れています。また、発表やスピーチの構成・話し方の工夫に関する知識は良く定着しています。
- ・情報の扱い方(文章や言葉の中にある共通点や相違点、原因と結果などを見つけ、分かりやすく整理する力)に課題が見られました。複数の情報や図・メモから必要な要素を取り出し、相互の関係を理解することを苦手とする児童が多い傾向にあります。
- ・叙述をもとに、目的や相手に応じて、自分の考えや伝えたい事柄を論理的・効果的に文章で表現する力には課題が見られました。自分の考えをまとめることや文章化することに対して、苦手意識をもつ児童が多い傾向にあります。

（2）今後の取組方針

国語科の学習においては、情報化社会で必要となる、「論理的に考え、自分の考えを形作る力」を育成していくために、次のことについて意識して取り組んでいきます。

① 記述指導の徹底

- ・記述問題に対して、「何を書けばよいか分からない」状態をなくすため、考えの足がかりとなるキーワードや文章表現の基礎的な型を示した指導を行います。
- ・授業内で自分の経験や考えを短文で書く機会を増やし、書くことへのハードルを下げます。

② 情報を整理・構造化する視点の育成

- ・文章を単に読むだけでなく、図式化したり表を用いたりして、情報を整理する活動を取り入れます。
- ・「文章の要点」や「筆者の工夫」を箇条書きで抜き出す練習を重点的にを行います。

③ 漢字・語彙の定着と文脈での活用

- ・一問一答形式の漢字練習にとどまらず、「文の中で漢字を使う練習」や「同音異義語・語彙の意味を理解して使う指導」を徹底します。

算数科

(1) 結果の概要

- ・算数全体の結果(平均正答率)は、全国や県・市の平均を下回る結果でした。
- ・基礎的な数の概念や位取りの理解については概ね良好でした。
- ・根拠や理由を読み取って説明する問題でも力を発揮できており、表から数値の矛盾を見つける問題にはしっかり取り組んでいます。
- ・概念の深い理解(特に分数・割合・体積)については、課題が残る結果となりました。
- ・グラフの読み取りや割合における無解答率が高くなっており、苦手意識が見られます。

(2) 今後の取組方針

算数科の学習においては、「表やグラフから読み取ったことを自分のことばで論理的に説明する力(=概念理解の向上)」を育成していくために、次のことに取り組んでいきます。

① 視覚的・操作的活動を取り入れた概念理解の充実

- ・公式を暗記させるだけでなく、具体物、数直線図、面積図などを積極的に活用し、「体積とは何か」「割合とは何か」「分数の大きさとは何か」などの本質的な理解を目指します。
- ・二次元の表や帯グラフ、折れ線グラフなどを読み取る活動を、算数の時間だけでなく他教科(社会・理科等)とも横断的に連携して指導します。

② 理由や根拠を言葉や式で説明する活動の充実

- ・答えを出すだけでなく、「どうしてその式になったのか」「なぜその大きさと判断したのか」を隣の席の児童やクラス全体に説明する「ペア対話」や「類題での理由説明」の活動をより一層重視していきます。

児童質問紙の結果からみられる現在の状況分析

本校の児童は「学校が楽しい(肯定的回答 89.7%)」と感じており、日々の学習に対しても「学んだことが生活や次の学習に役立つ(肯定的回答 77.6%)」という実感を強くもてていると考えられます。また、「先生が分かるまで教えてくれる(肯定的回答 91.4%)」という信頼感が非常に高く、安心感のある学習環境と教員の親身な指導が、児童の主体的な学びや学校生活への満足度に繋がっていると考えられ、これは6年生の強みであると考えられます。

一方で、ICT機器の活用頻度に対しては、全国平均に比べて課題(肯定的回答 57.7%)が見られます。さらに、学校図書館の日常的な利用割合が非常に低く(肯定的回答 7.7%)、読書習慣や情報収集手段としての図書館活用に課題が見られるため、2学期以降改善が図れるように取り組んでいきたいと考えています。

また、本校の児童は「自己肯定感」や「安心できる人間関係」の面で非常に良い傾向が見られました。特に、「先生が自分のよいところを認めてくれている」と感じている児童の割合が約96%にのぼり、教員や周囲からの承認が子どもたちの安心感や将来の夢・目標につながっていると捉えることができます。さらに、「いじめはどんな理由があってもいけない」という強い意識が定着しているほか、「友達関係に満足している」や「困った時に先生や大人に相談できる」といった児童の割合が、ともに7割を超え、全国平均よりも大いに高く、互いを思いやり、安心して学校生活を送ることができる環境が育まれているとみることができます。

今後も、一人一人の強みや良さを認め合い、誰もが安心して過ごせる学校づくりに励んでまいります。引き続き、ご家庭での温かい声かけとご協力をよろしくお願いいたします。